



# 2021年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

2020年8月3日  
日本水産株式会社

国内外の外食・観光需要の大幅減、需要減による水産市況の悪化に加え、コンビニエンスストア（CVS）向け販売減も響き約7%の減収も、コロナウイルスの影響を織り込んだ計画に対しては概ね想定通り。第2波・第3波のリスクあるが、現時点では年間計画に変更はない。

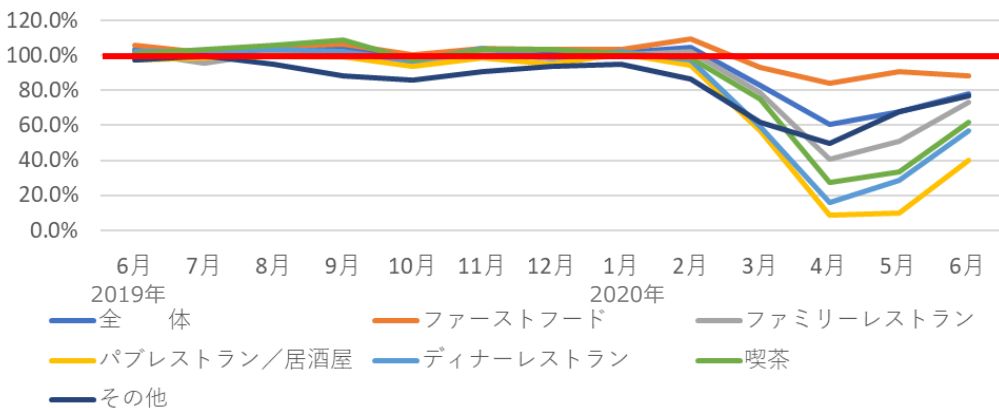
(単位：億円)

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期比		2021年3月期 計画	達成率 (%)
			増減	(%)		
売上高	1,741 億円	<b>1,622</b> 億円	▲118 億円	93.2	6,700 億円	24.2
営業利益	57 億円	<b>42</b> 億円	▲14 億円	74.5	190 億円	22.4
経常利益	60 億円	<b>49</b> 億円	▲11 億円	81.6	215 億円	23.0
四半期 純利益	36 億円	<b>31</b> 億円	▲4 億円	88.1	150 億円	21.3

## 外食産業、CVSは3月～5月に大きくマイナス、6月は若干回復傾向。

日本 外食産業市場動向調査 (2020年6月度)

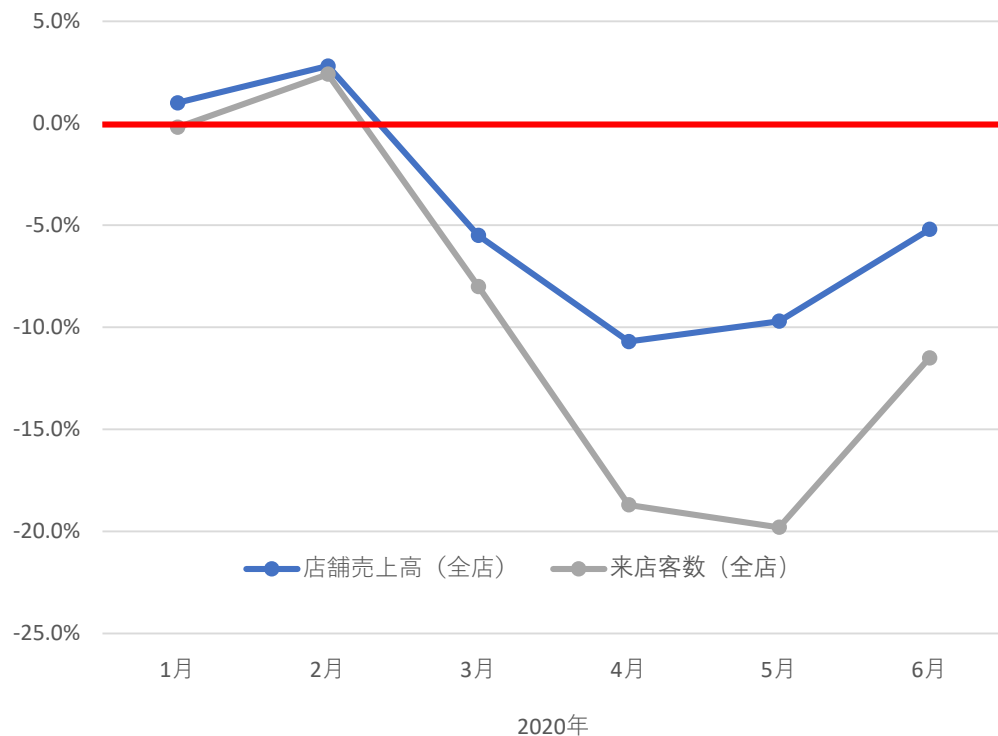
売上高前年同月比



出典：(一社) 日本フードサービス協会

日本 CVS統計調査 (2020年6月度)

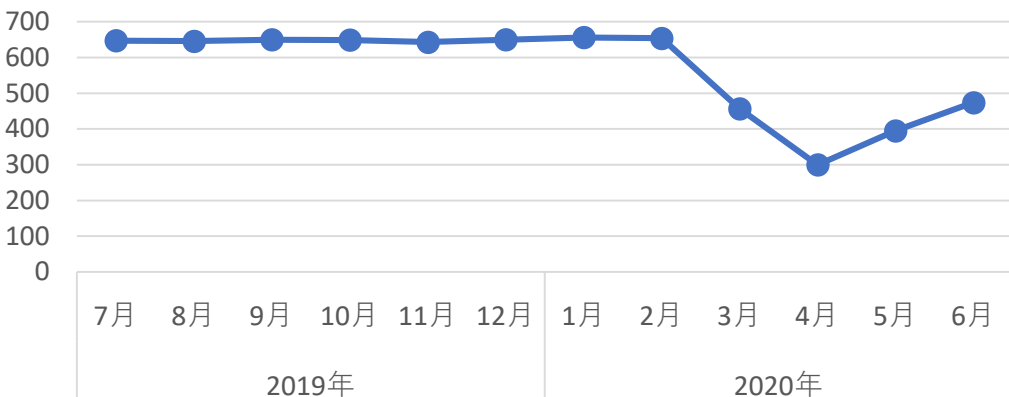
店舗売上高・来店客数 前年同月比



出典：(一社) 日本フランチャイズチェーン協会

単位：億ドル

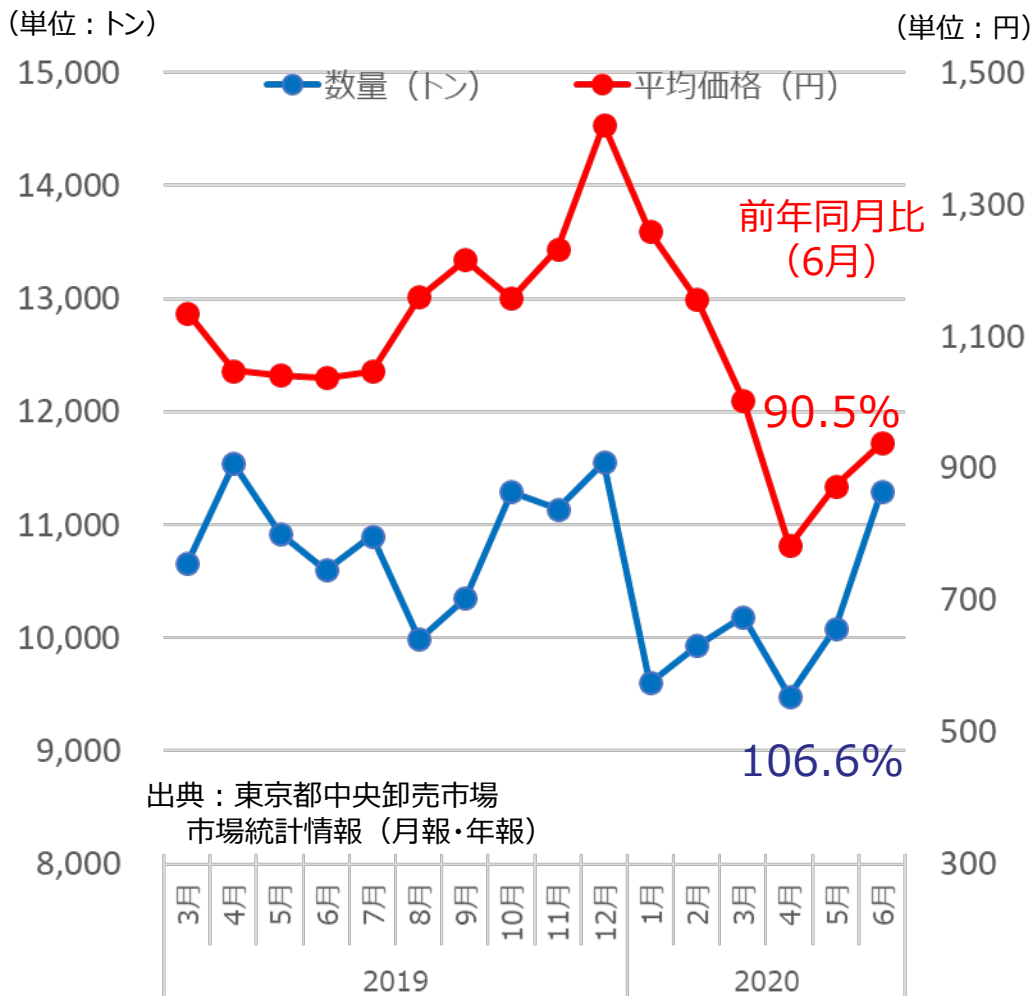
米国 外食産業売上高推移



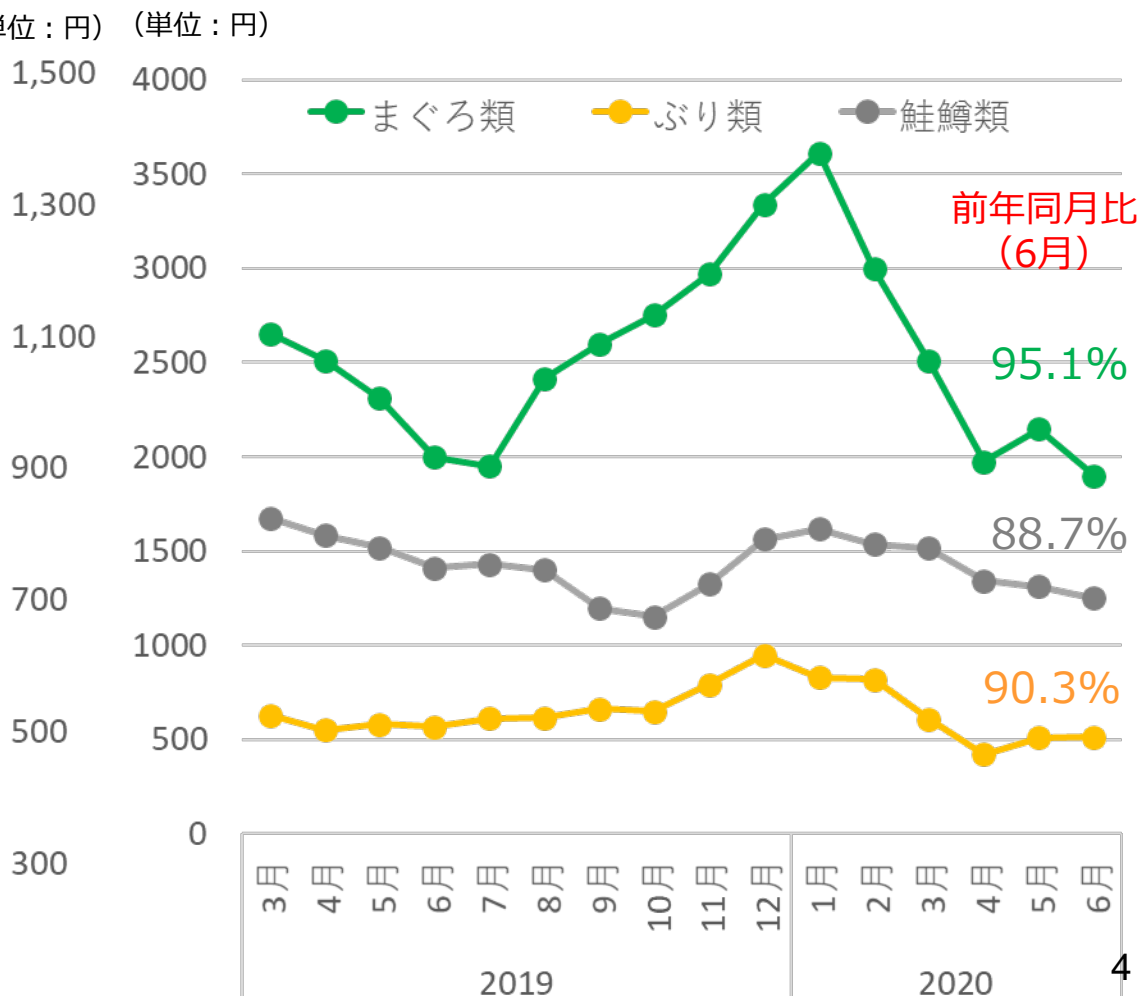
出典：U.S. Census Bureau. National Restaurant Association.

高級魚の販売急減が響き、4月は価格が急落、豊洲市場全体の取扱いは5・6月は若干回復傾向。

＜豊洲市場の鮮魚全体の取扱い数量と平均価格推移＞



＜豊洲市場の魚種別平均価格推移＞

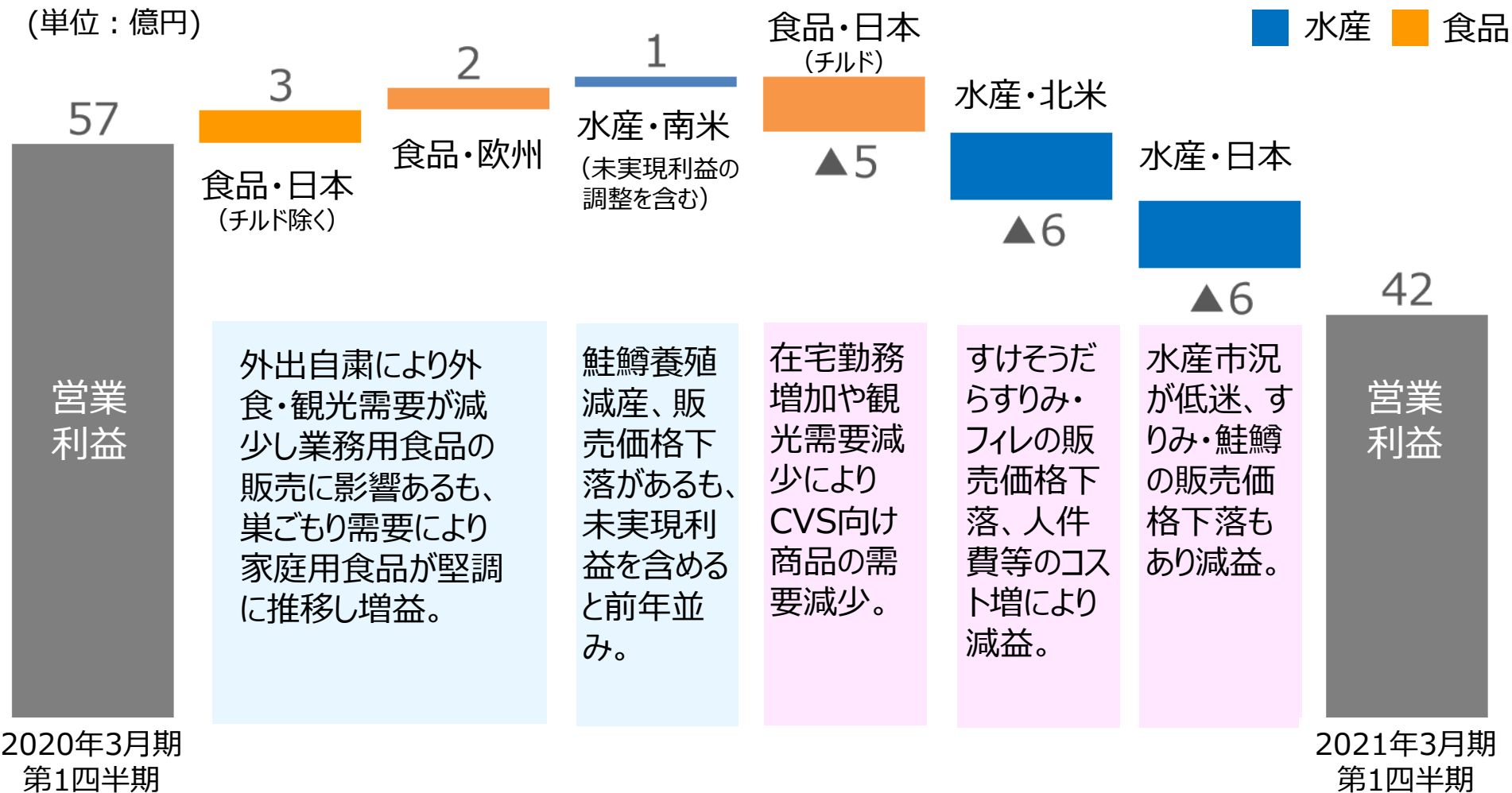


外出自粛により家庭内消費が増加し、家庭用食品は堅調に推移したが、外食・観光需要の減少により水産品・業務用食品・CVS向けの売上が大きくマイナス。

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
<b>売上高</b>	<b>1,741</b>	<b>1,622</b>	<b>▲118</b>	<b>93.2</b>
水産事業	701	649	▲52	92.5
食品事業	880	840	▲39	95.5
ファインケミカル事業	66	54	▲11	82.6
物流事業	41	41	0	100.1
その他	51	36	▲15	70.1
<b>営業利益</b>	<b>57</b>	<b>42</b>	<b>▲14</b>	<b>74.5</b>
水産事業	30	20	▲10	66.7
食品事業	33	30	▲2	92.8
ファインケミカル事業	5	2	▲2	54.4
物流事業	2	4	1	176.3
その他	1	1	0	175.3
全社経費	▲15	▲17	▲2	114.1
<b>経常利益</b>	<b>60</b>	<b>49</b>	<b>▲11</b>	<b>81.6</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	36	31	▲4	88.1

食品は国内外とも堅調な一方、CVS向けが苦戦。水産は需要減と市況悪化を受け日米欧とも減益。南米鮭鱒養殖事業は未実現利益の連結調整を含めると前年並み。

(単位：億円)



## 前期末に引き続き、現預金を厚めに確保

( ) 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<p><b>流動資産 2,607 (+76)</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>現金及び預金 326 (+52)</p> <p>受取手形及び売掛金 800 (+0)</p> <p>棚卸資産(在庫) 1,311 (+1)</p> </div>	<p><b>流動負債 1,871 (▲97)</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>支払手形及び買掛金 362 (+7)</p> <p>短期借入金 1,106 (▲102)</p> <p>未払費用 223 (▲9)</p> </div>
<p><b>固定資産 2,361 (▲22)</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>有形固定資産 1,467 (▲13)</p> <p>無形固定資産 101 (▲2)</p> <p>投資その他の資産 793 (▲6)</p> </div> <p><b>総資産 4,968 (+53)</b></p>	<p><b>固定負債 1,376 (+153)</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>長期借入金 1,149 (+146)</p> </div>
	<p><b>純資産 1,720 (▲2)</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>自己資本 1,531 (+0)</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自己資本比率</p> <p>'20/3 31.2% ⇒ '20/6 30.8%</p> </div>

## 営業CFが改善

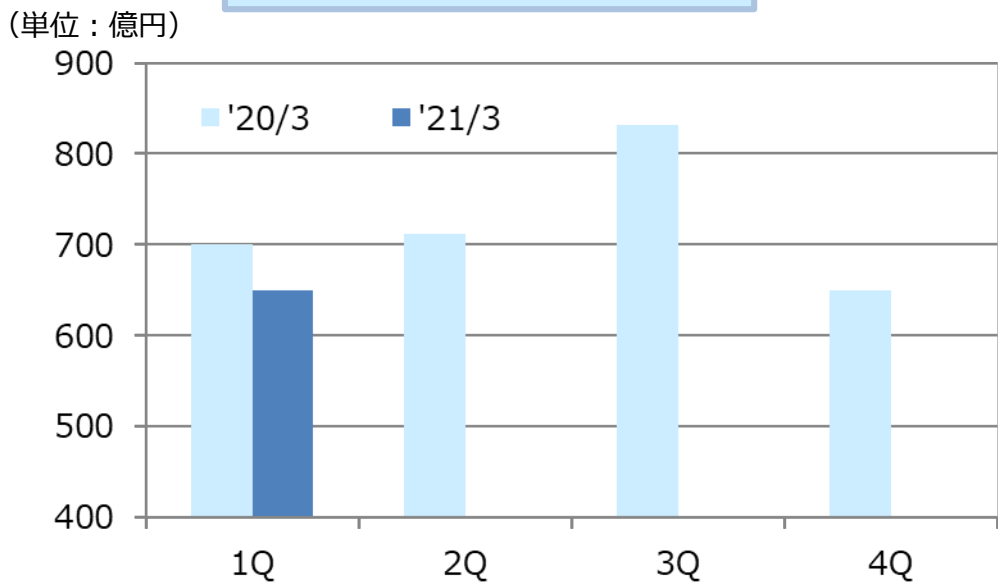
(単位:億円)	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	59	50	▲ 9
・減価償却費 (のれん償却含む)	44	47	2
・運転資本	▲ 112	▲ 24	88
・法人税等の支払額	▲ 26	▲ 16	10
・その他	▲ 30	▲ 1	29
<b>営業活動によるCF</b>	<b>▲ 65</b>	<b>55</b>	<b>121</b>
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 60	▲ 54	6
・その他	▲ 4	37	41
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 64</b>	<b>▲ 16</b>	<b>47</b>
・短期借入金の増減額	188	▲ 80	▲ 268
・長期借入金の増減額	▲ 60	129	189
・その他	▲ 16	▲ 17	▲ 0
<b>財務活動によるCF</b>	<b>111</b>	<b>31</b>	<b>▲ 79</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>142</b>	<b>383</b>	



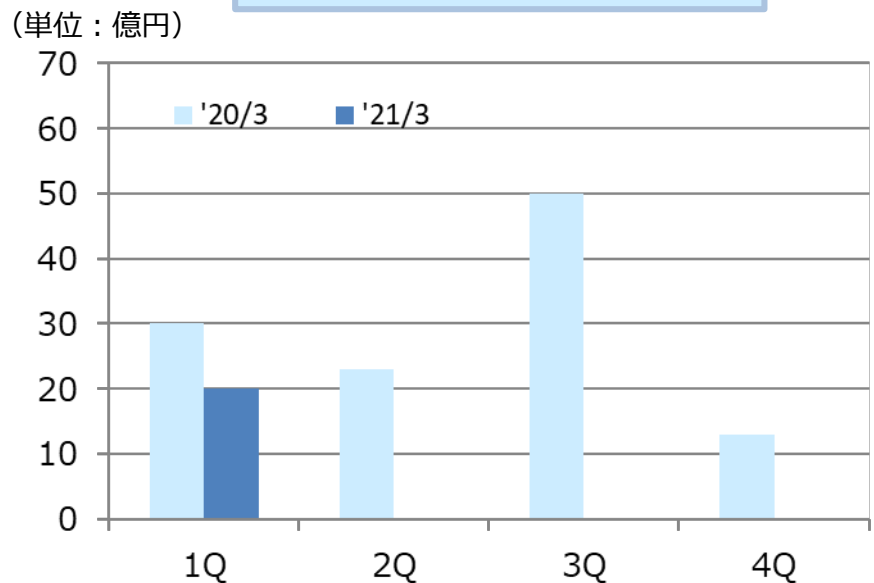
国内外とも外出自粛により外食・観光需要が減少、需要減で魚価も下落し減収減益。

(単位：億円)	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	(%)
売上高	<b>701</b>	<b>649</b>	<b>▲52</b>	<b>92.5</b>
営業利益	<b>30</b>	<b>20</b>	<b>▲10</b>	<b>66.7</b>

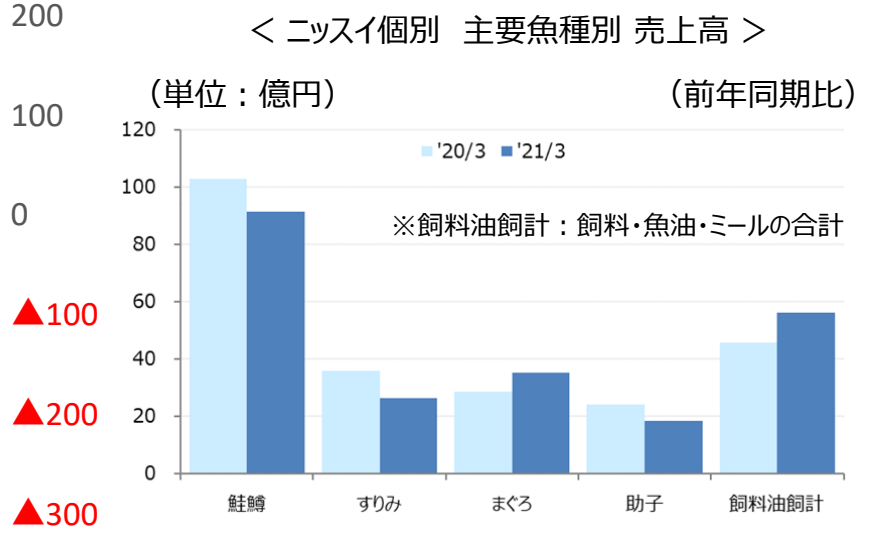
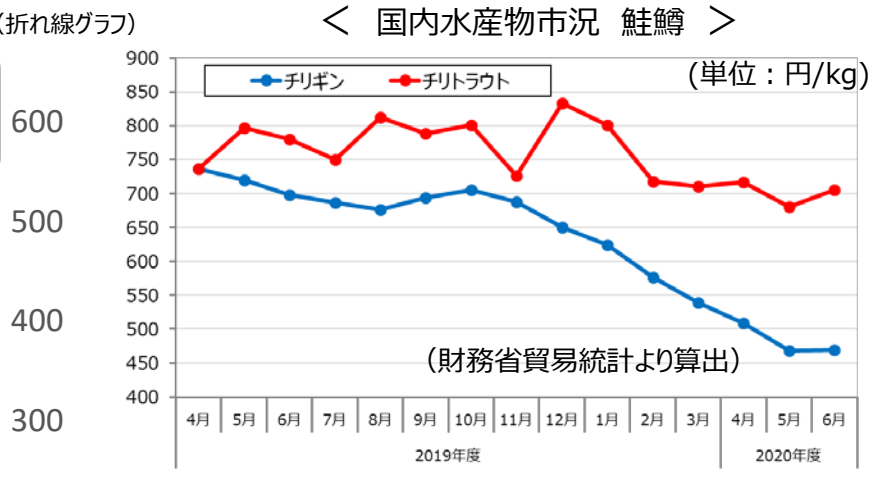
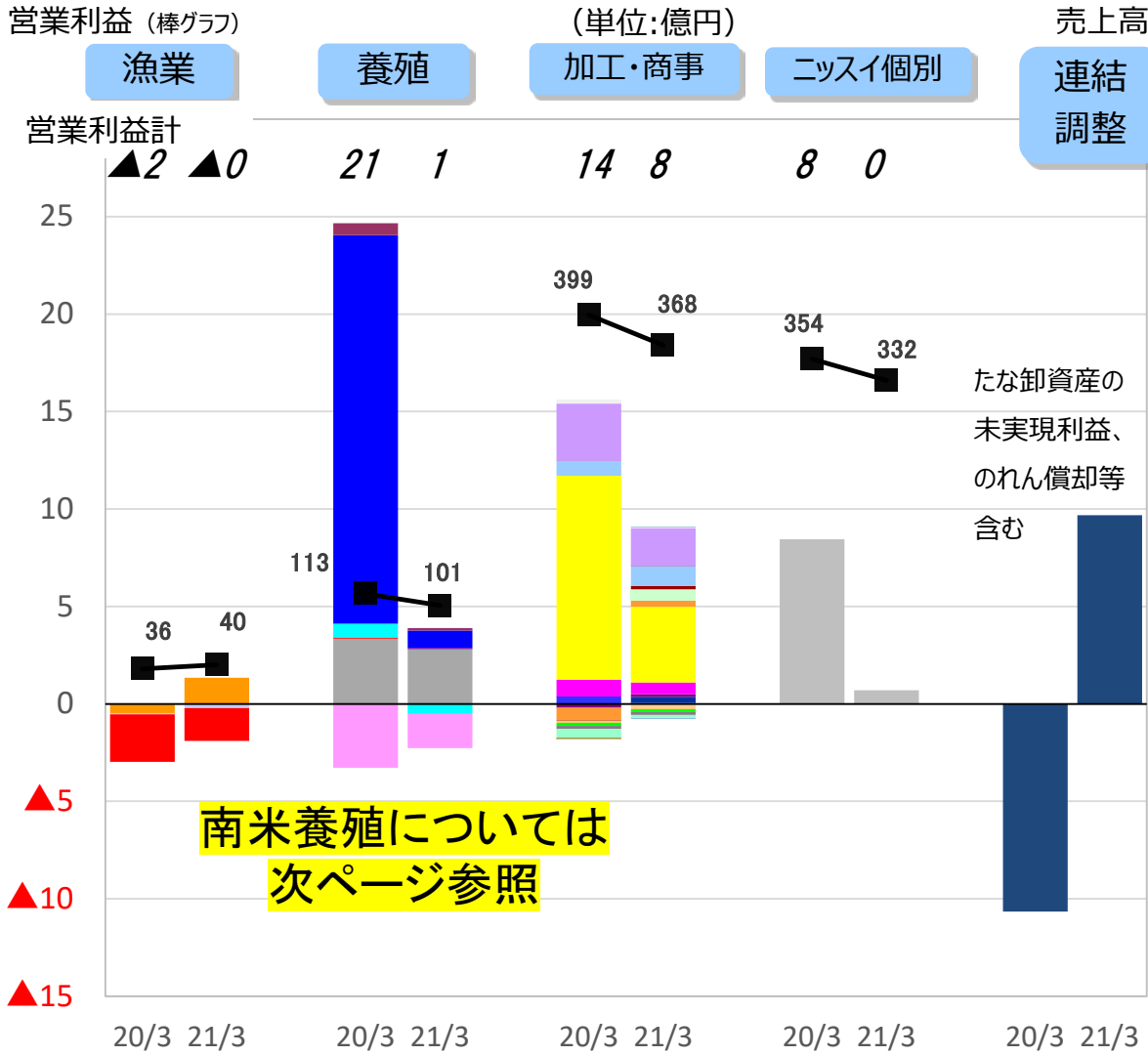
売上高 (四半期別)



営業利益 (四半期別)

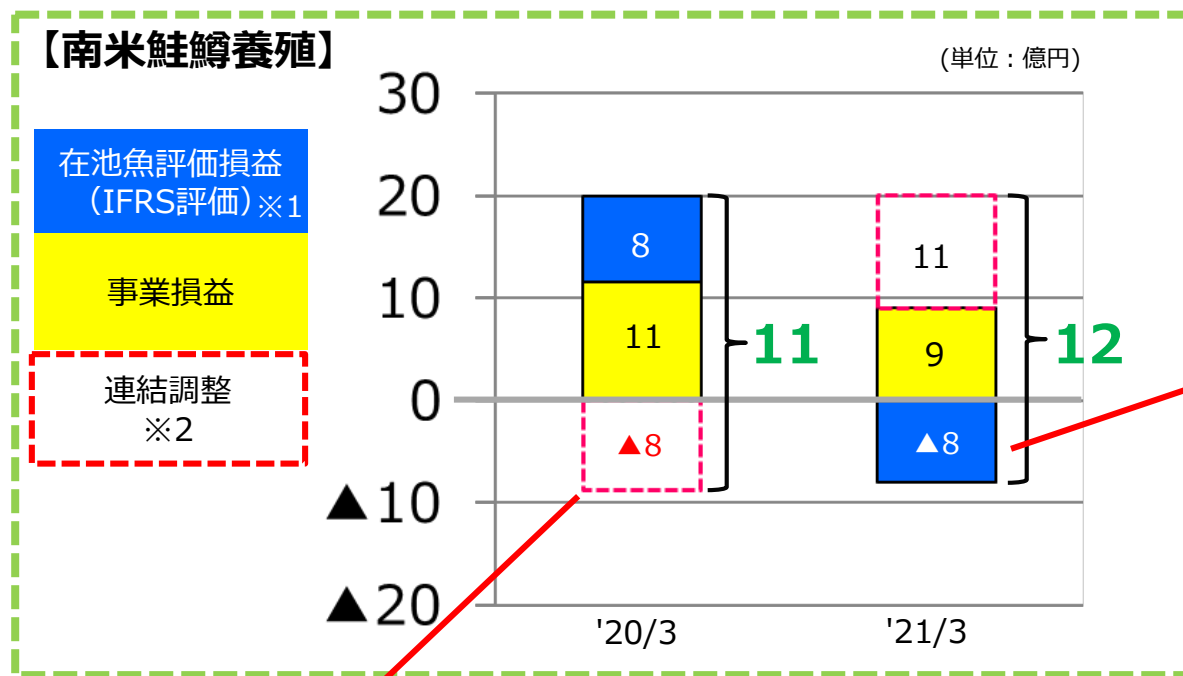


漁業は日本でいわし・ぶりの漁獲が順調に推移し増益。加工・商事、ニッスイ個別とも販売数量の減少、価格下落の影響もあり減益。



## 未実現利益の調整を含めると連結では前年並みの利益

在池魚評価損益と未実現利益の調整は在庫数量と利益率の影響を受ける。  
前期の調整額の戻しと当期末の調整額の差額が当期に影響する。



※1 在池魚評価損益  
国際財務報告基準(IFRS)に基づき、**海面養殖魚（在池魚）について出荷想定価格による評価**を実施

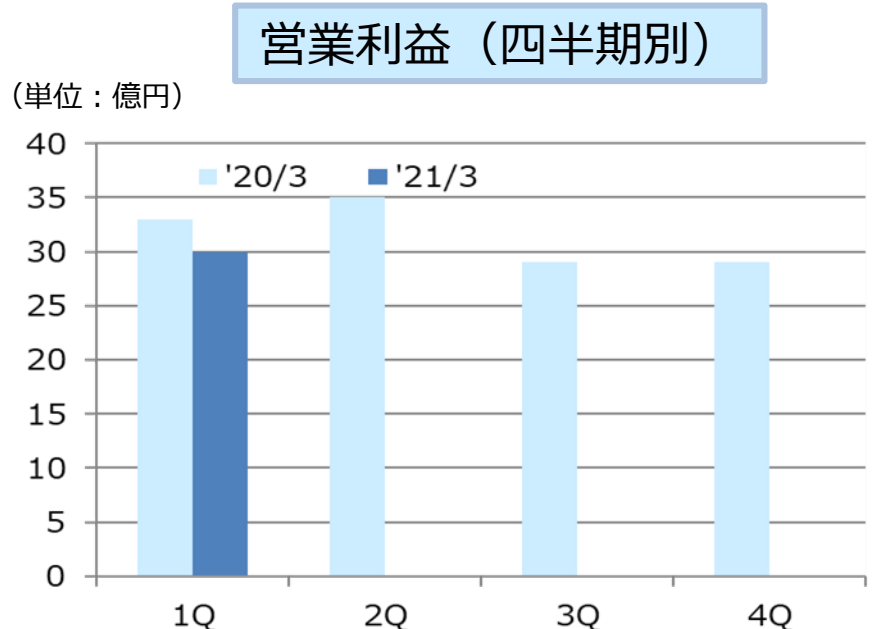
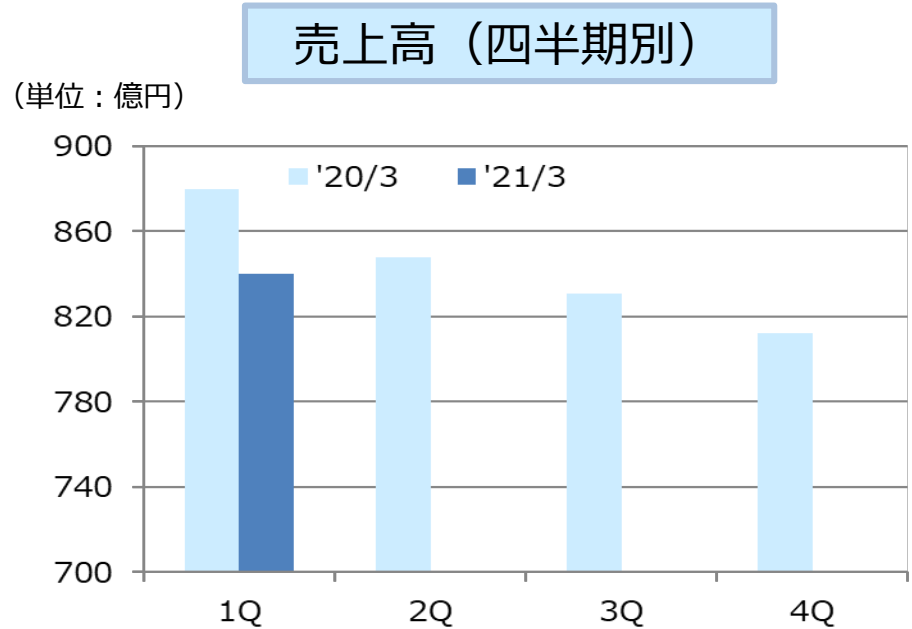
計算基準がノルウェー方式とチリ方式に分かれていたが、前期末よりノルウェー方式に統一された。

【評価対象】  
(従来) 2kg以上の海面養殖魚  
↓  
(変更後) すべての海面養殖魚

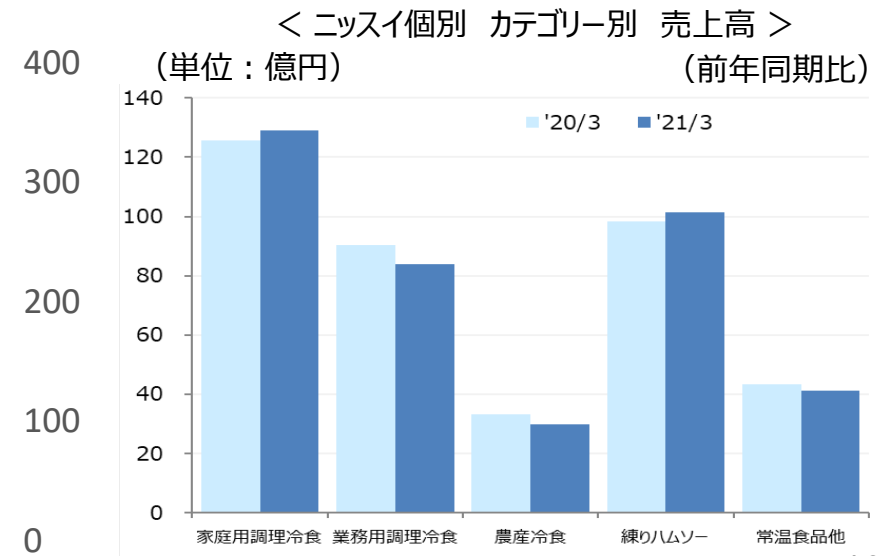
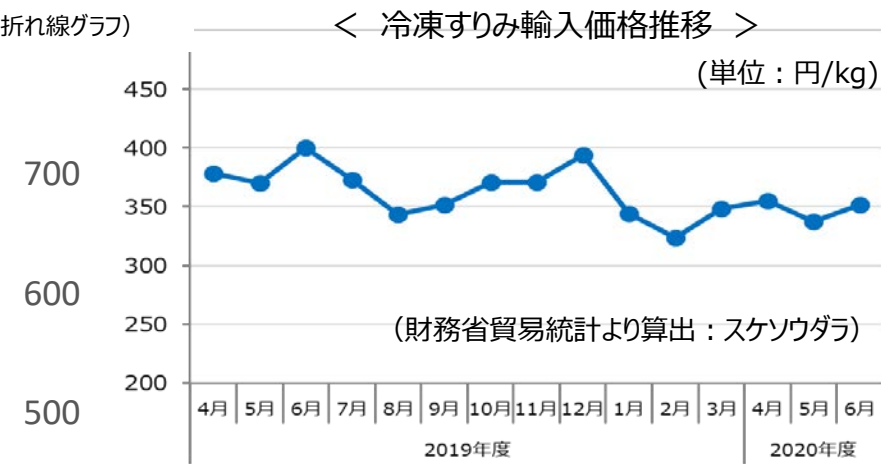
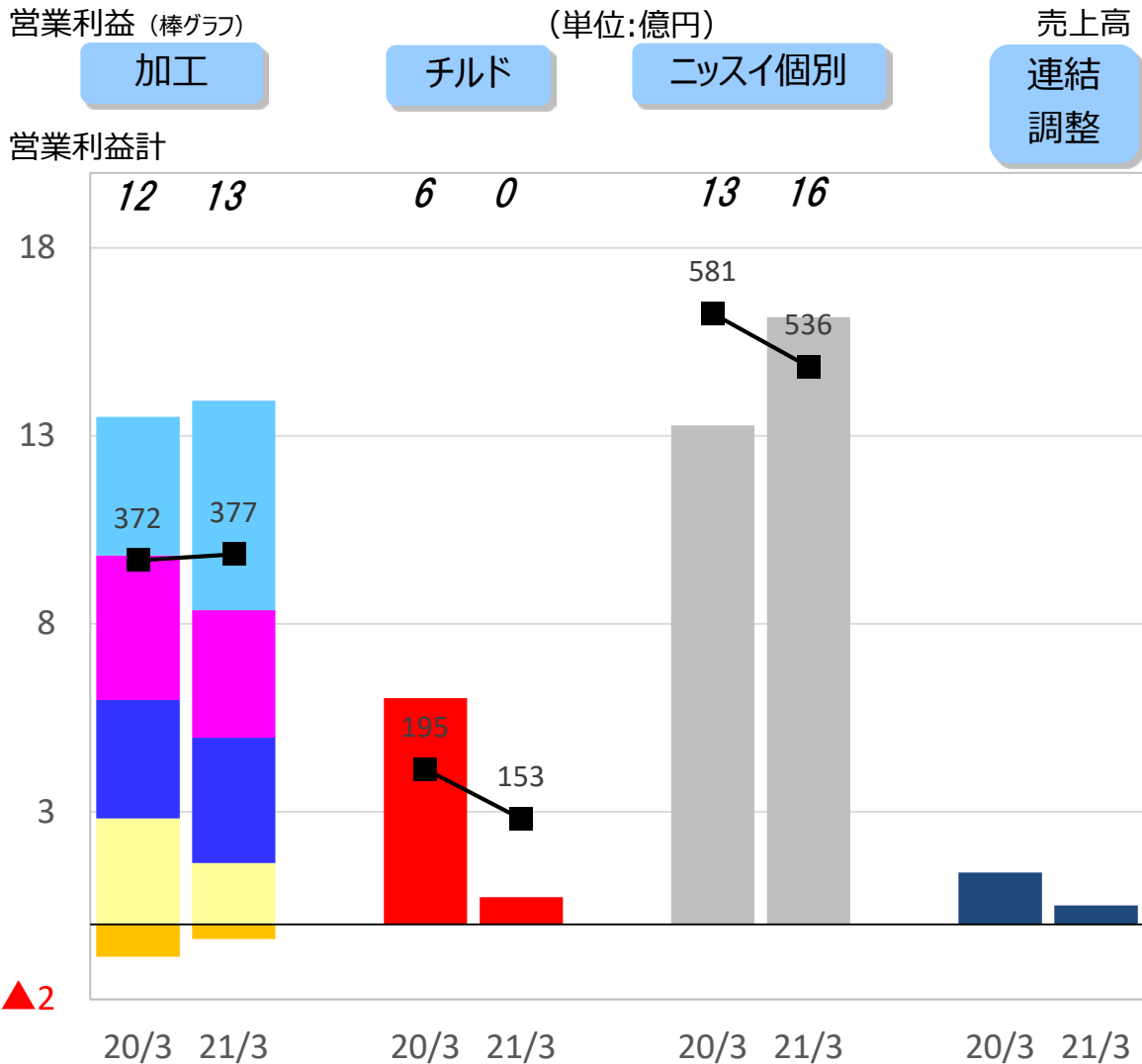
※2 在庫に含まれる未実現利益の調整  
グループ内の在庫に含まれている利益を消去する決算調整

家庭用食品の販売が堅調に推移したが、ホテル・レストランなどの外食、CVS向けの需要減少が響き減収減益。

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	880	840	▲39	95.5
営業利益	33	30	▲2	92.8



国内外とも家庭用食品が堅調に推移したが、CVS向けの影響が大きく  
 トータルでは若干減益。

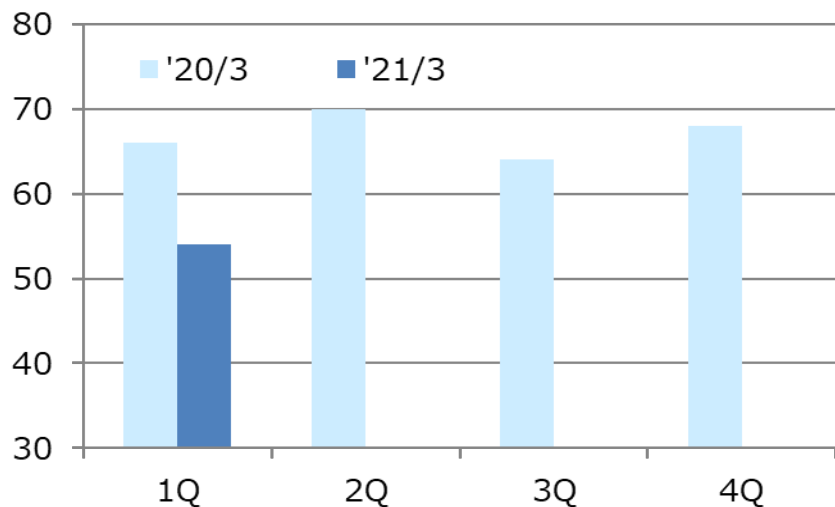


健康食品向け機能性原料・通販事業は堅調も、医薬原料の販売が減少。子会社の医薬事業売却（4月）もあり減収減益。

(単位：億円)	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	(%)
売上高	66	54	▲11	82.6
営業利益	5	2	▲2	54.4

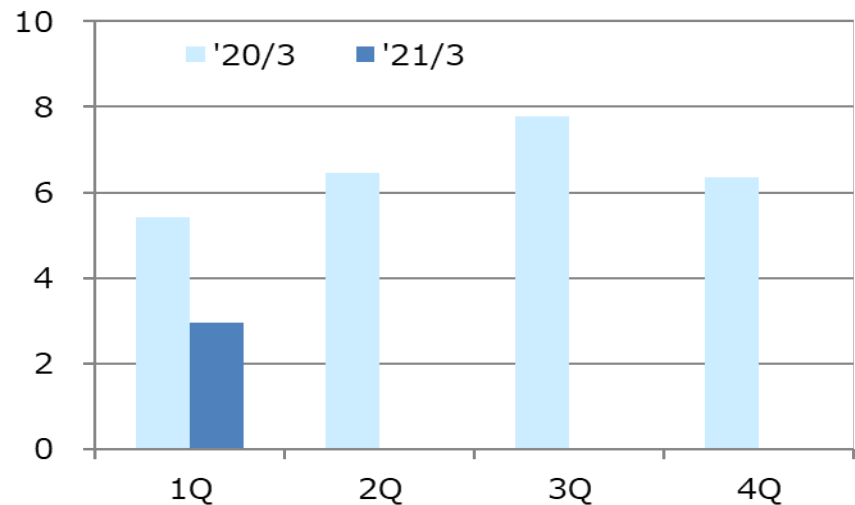
売上高（四半期別）

(単位：億円)



営業利益（四半期別）

(単位：億円)

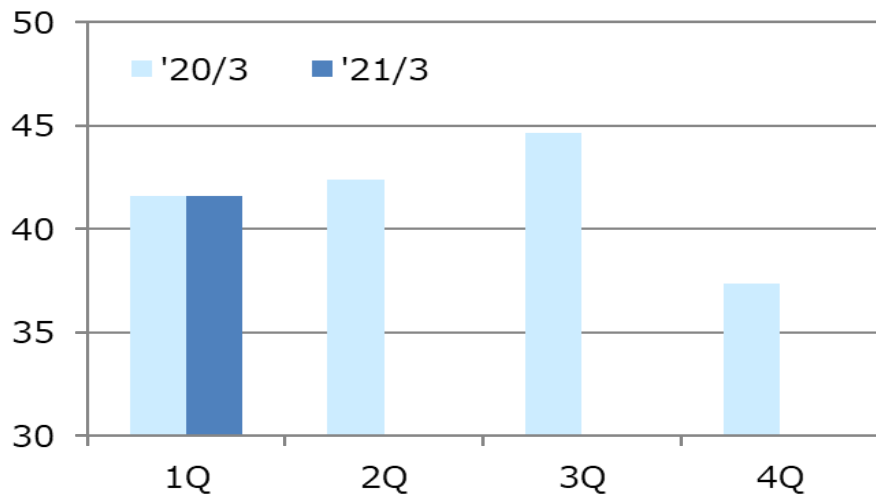


荷動き鈍化による入出庫収入減少の影響があるも、大阪の舞洲物流センター2号棟の新規稼働もあり売上高は前年並み。利益は昨年の一時的な退職給付に関わる費用が無くなり増益。

(単位：億円)	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期比増減	
	第1四半期	第1四半期	(億円)	(%)
売上高	<b>41</b>	<b>41</b>	<b>0</b>	<b>100.1</b>
営業利益	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>176.3</b>

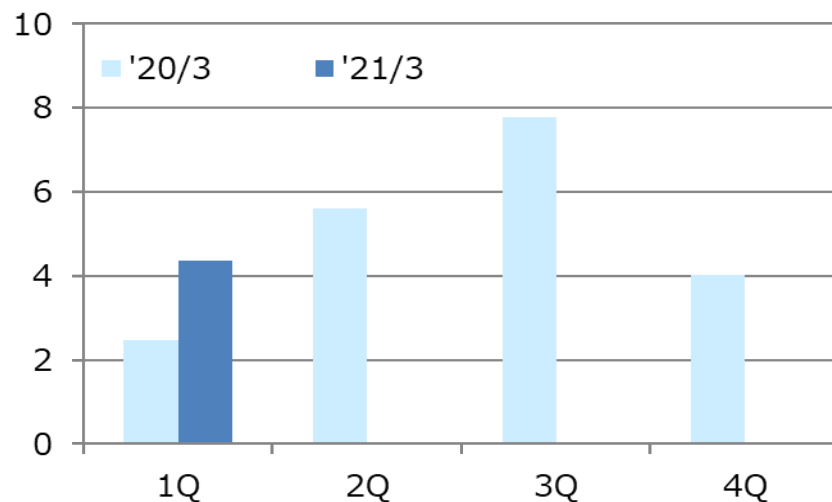
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

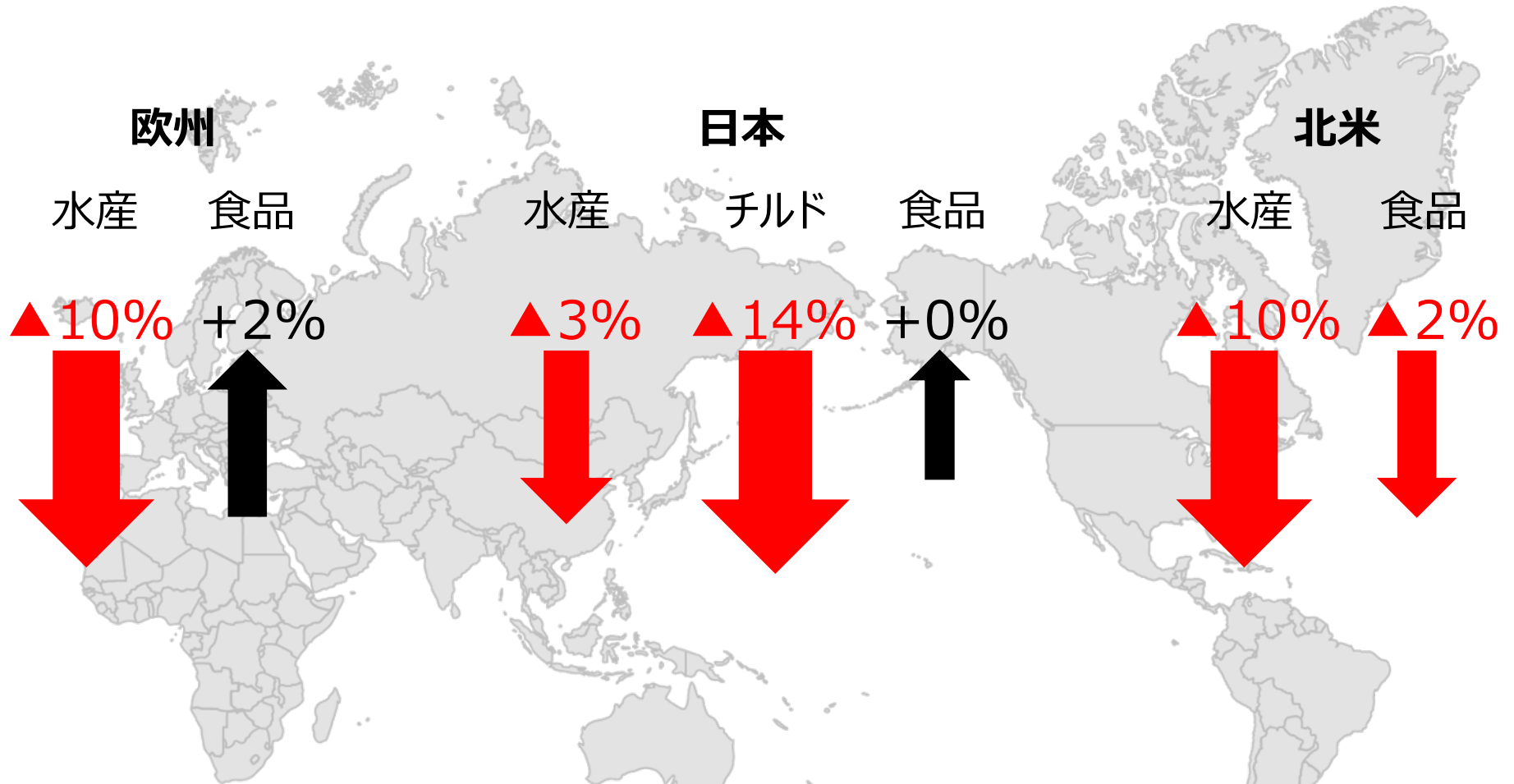
(単位：億円)



# 2021年3月期の見通しと 今後の取組み



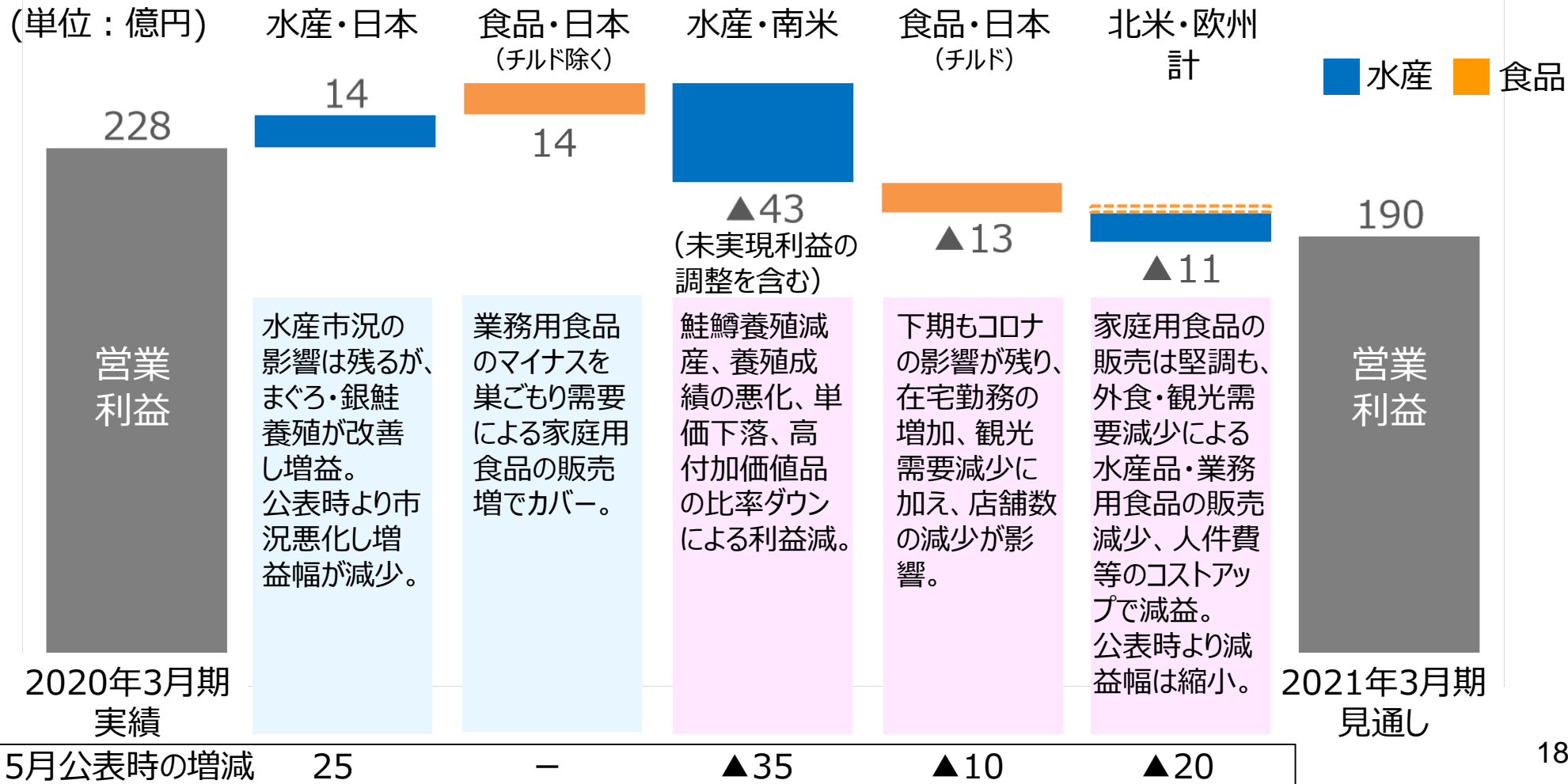
水産事業は国内外で大きく減収の見通し、食品事業は業務用食品・CVS向けの減少を家庭用食品で一部カバー。



日本・欧州は家庭用食品のウエイトが高い。

北米は業務用食品のウエイトが高い。

感染拡大が収まらず水産市況への影響が不透明。現時点では日本の養殖事業の改善、家庭用食品の販売増が見込める一方、南米養殖、海外の水産・業務用食品が苦戦する予想。



## 養殖事業の拡大、収益基盤強化

### 養殖事業の拡大

#### 陸上養殖の展開

- マサバ循環式陸上養殖試験開始  
2023年4月の事業化を目指す



マサバ循環式  
陸上養殖施設  
「米子陸上養殖センター」  
2020年5月竣工

2021年2月より水揚予定

- デンマークのサケ閉鎖循環式養殖
  - 飼育数量の拡大とコスト削減
  - 環境負荷の少ない養殖魚として、プレミアム販売



### 認証品の販売拡大

2020年6月 チリEMDEPES社  
メルルーサのMSC-CoC認証を取得  
MSC認証品として生産・販売を展開



トロール工船  
「UNZEN(ウンゼン)」。メルルーサなどを漁獲して、船内で加工する

養殖魚の認証取得も引き続き推進し、資源の持続的利用、環境・社会への配慮を徹底し、付加価値向上を目指す。

**国内販売**：魚価下落による損失を回避するため、在庫コントロールを強化し  
収益の安定化に努める

## 消費者の食生活の変化と健康意識の高まりに対応

➤ ウイズコロナ・新しい生活様式を踏まえた商品開発を推進

### 家庭用食品

- 外出自粛による需要増への対応
- 人員確保・効率的な生産体制構築



欧州



北米



日本

お皿のいらないレンジで簡単調理

### 業務用食品

- テイクアウト・デリバリー需要への対応



日本

たいめいけん監修品  
シーフードグラタン



北米

えび原料以外の商品拡充  
(例: フィッシュサンド)

### チルド事業

- 人員・生産体制の見直し、最適化を図る





## 多様なライフスタイルに対応した、新たな価値と市場を創造

ウィズコロナ時代の新たな食生活に  
『平日の昼食需要増』・『夕食惣菜の需要増』



えびと野菜と一緒に入り  
トレーごとレンジで簡単調理



殻ごと食べるえびチリ

「内食・中食ニーズの高まり」  
「簡単調理」



ポイルで調理



「食による健康管理」  
「魚と野菜」



今日のおかず  
食卓にもう一品

服部栄養専門学校監修



レンジで簡単調理

## デザイン思考を取り入れた商品開発 赤ちゃんを抱っこしながら食事する産後ママのために、開発しました

やっと食べられる…と思ったら、  
また子どもが泣き始めて、私のご飯はおあずけ。  
でも、子育てにはお母さん自身の健康も大切ですよね。

そこで、お母さんを想って作りました。

- ・ 具たっぷり  
しっかりとした食べ応え
- ・ 片手で飲める
- ・ すぐ準備できる
- ・ 温かいスープ

Suu Ramu Soup

**手が離せない忙しい方全般へ**  
電子レンジで温められる、ストローで飲む  
具材たっぷりカップスープ

何かをしながらでも、  
片手でしっかり食べられます。

たっぷりの具をまるごと  
味わえる専用ストロー付き。

倒れてもこぼれにくい  
安心キャップ付き。

すって、噛んで、食べる。  
すうかむすーぷ

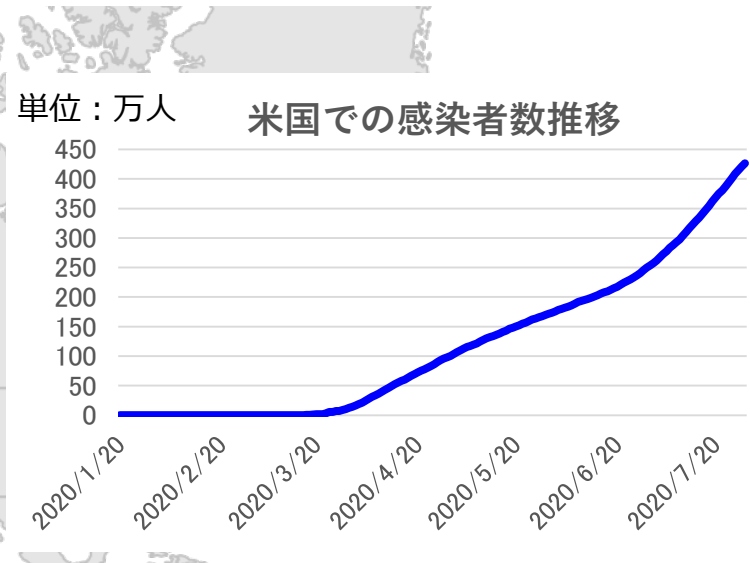
容器ごと電子レンジで30秒\*  
温めるだけで食べられる。  
時間がなくても、  
温かいスープでほっと一息。

- 規格 -  
内容量150g 常温保存可能  
(9か月)

\*ミネストローネ, 600wの場合

## 米国向け医薬品原料販売は最終段階も想定よりやや遅れ

**FDAへの手続きはやや遅れながらも着実に前進**  
**査察時期のコロナウイルス影響が不確定要素**



**米国での感染拡大**

## 減収、減益

(単位：億円)	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	増減	主な増減要因
売上高	1,741	1,622	▲ 118	
売上総利益	338	318	▲ 20	
販売費・一般管理費	281	275	▲ 6	
営業利益	57	42	▲ 14	
営業外収益	9	11	▲ 2	持分法投資利益+3
営業外費用	5	4	▲ 0	
経常利益	60	49	▲ 11	
特別利益	0	1	▲ 1	固定資産売却益+1
特別損失	2	1	▲ 0	
税金等調整前四半期純利益	59	50	▲ 9	
法人税等	12	10	▲ 2	
法人税等調整額	10	7	▲ 2	
四半期純利益	36	32	▲ 4	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	0	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36	31	▲ 4	



# 【参考】 為替換算による影響額(売上高)、為替レート



## 各通貨とも円高により為替影響はマイナス

主要在外会社の 為替換算レート	2020年3月期 第1四半期		2021年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	333	367	329	358	▲3	▲8	▲4	▲3
EUR(百万ユーロ)	73	92	81	97	7	5	9	▲4
DKK(百万クローネ)	747	125	698	112	▲49	▲13	▲8	▲4
その他通貨	—	58	—	52	—	▲6	▲5	▲0
計		643		621		▲21	▲7	▲14

### 【参考：為替レート】

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	変動率
米ドル (USD)	110.27円	109.11円	▲1.1%
ユーロ (EUR)	125.27円	120.06円	▲4.2%
デンマーククローネ (DKK)	16.78円	16.07円	▲4.2%

※右表の為替レートは  
第1四半期の平均

# 【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	524 (▲35)	130 (▲1)	46 (▲10)	15 (▲1)	126 (▲10)	844 (▲59)	▲194 (7)	649 (▲52)
	559	131	57	17	137	903	▲201	701
食品事業	772 (▲92)	182 (4)		12 (▲5)	105 (3)	1,072 (▲90)	▲231 (50)	840 (▲39)
	865	178		18	101	1,163	▲282	880
ファイン事業	61 (▲10)			1 (0)		63 (▲10)	▲8 (▲1)	54 (▲11)
	72			1		73	▲7	66
物流事業	79 (▲0)					79 (▲0)	▲38 (0)	41 (0)
	79					79	▲38	41
その他事業	50 (▲12)			0 (▲0)		50 (▲12)	▲14 (▲2)	36 (▲15)
	63			0		63	▲11	51
仮計	1,489 (▲151)	312 (2)	46 (▲10)	30 (▲7)	231 (▲6)	2,110 (▲173)		
	1,640	309	57	37	238	2,283		
連結調整	▲374 (49)	▲51 (▲1)	▲37 (1)	▲21 (5)	▲3 (▲0)		▲487 (54)	
	▲424	▲50	▲38	▲26	▲2		▲542	
連結計	1,114 (▲101)	260 (1)	9 (▲9)	9 (▲1)	228 (▲7)			1,622 (▲118)
	1,216	259	18	10	236			1,741

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# 【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	3 (▲6)	5 (▲6)	▲0 (▲18)	0 (1)	2 (▲0)		10 (▲30)	9 (20)	20 (▲10)	3.1 (▲1.2)
	9	11	17	▲0	2		41	▲10	30	4.3
食品事業	17 (▲2)	6 (▲0)		▲0 (▲2)	5 (2)		28 (▲3)	2 (0)	30 (▲2)	3.7 (▲0.1)
	20	6		1	2		31	1	33	3.8
ファイン事業	2 (▲2)			0 (▲0)			3 (▲2)	▲0 (▲0)	2 (▲2)	5.4 (▲2.8)
	5			0			5	▲0	5	8.2
物流事業	4 (1)						4 (1)	0 (▲0)	4 (1)	10.5 (4.5)
	2						2	0	2	5.9
その他事業	1 (0)			0 (0)			1 (0)	0 (▲0)	1 (0)	5.0 (3.0)
	0			0			0	0	1	2.0
全社経費						▲17 (▲1)	▲17 (▲1)	▲0 (▲0)	▲17 (▲2)	
						▲15	▲15	0	▲15	
仮計	29 (▲8)	12 (▲6)	▲0 (▲18)	0 (▲1)	7 (2)	▲17 (▲1)	30 (▲35)			
	38	18	17	1	5	▲15	65			
連結調整	0 (▲0)	▲0 (1)	12 (20)	1 (1)	▲1 (▲1)	▲0 (▲0)		11 (20)		
	1	▲1	▲8	▲0	▲0	▲0		▲8		
連結計	29 (▲9)	12 (▲5)	11 (1)	1 (▲0)	5 (0)	▲17 (▲1)			42 (▲14)	2.6 (▲0.7)
	39	17	9	1	5	▲15			57	3.3

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2020年8月3日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

